

令和4年度 新規指定文化財

【古文書 紙本淡彩 常楽寺境内絵図 一幅】

所 有 者：常楽寺

制作年代：寛政3年（1791年）

（指定理由）

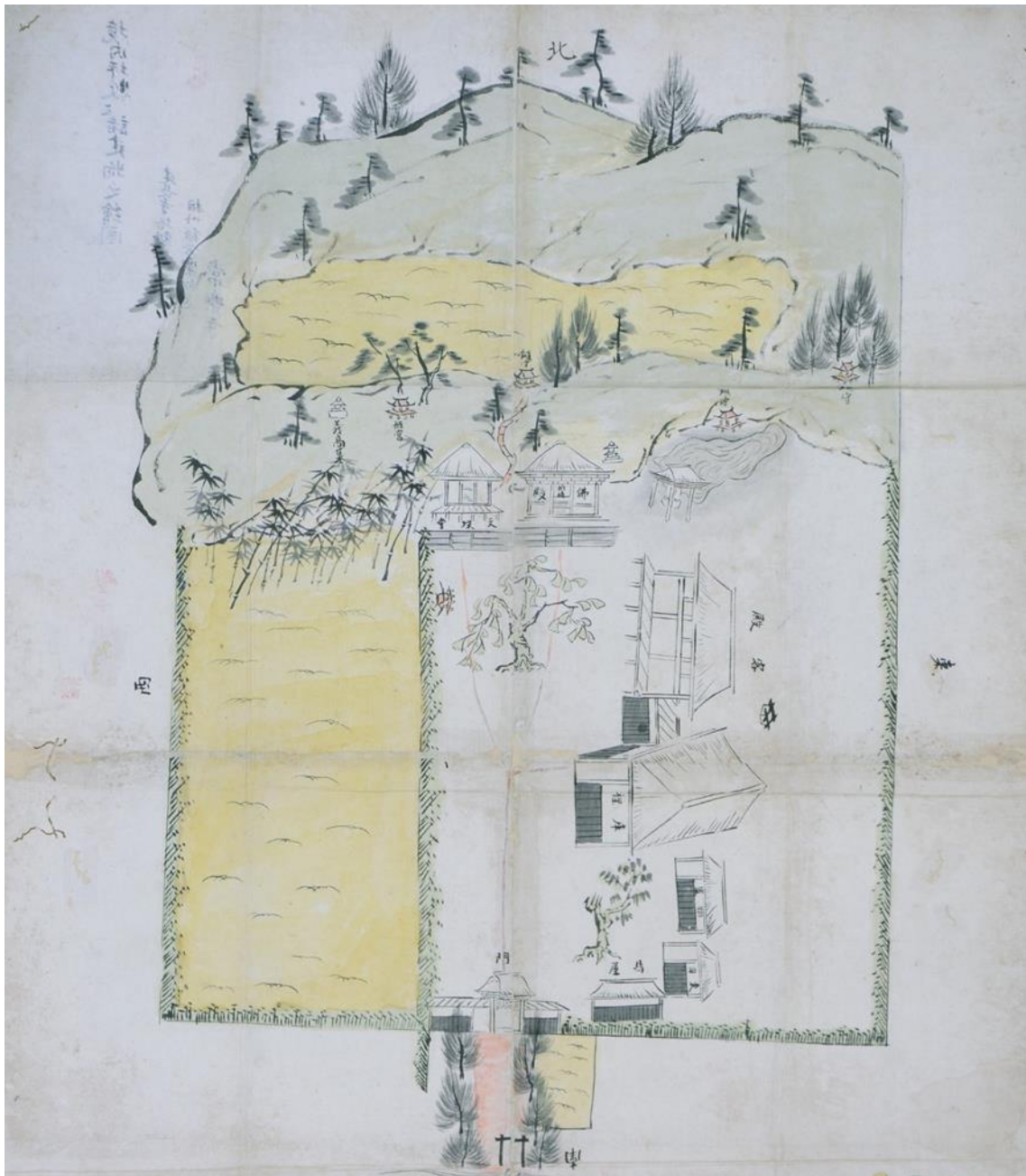
本資料は、寛政3年（1791年）に作成された常楽寺の境内絵図である。

寛政2年（1790年）に江戸幕府が建長寺へ、境内の伽藍や坪数を示した絵図を提出するよう命じたことを受け、本山である建長寺が、常楽寺をはじめとした末寺分の境内絵図群を取りまとめて幕府に提出した際の、常楽寺に残された控えと考えられる。

常楽寺は臨済宗建長寺派の寺院で、山号は粟船山。開山は退耕行勇、開基は北条泰時と伝わる。『吾妻鏡』嘉禎3年（1237年）12月13日条に、北条泰時が夫人の母「室家母尼」の追福のため寺院を建立したとあり、この寺院が常楽寺とみられている。泰時の死後はその追善の寺院となり、「山内粟船御堂」と呼ばれた。

絵図の表現内容としては、南側から水路を渡り冠木門を入れて正面に門、門を入れて右手に馬屋・東司・物置を描く。裏手の山中には複数の鎮守社や石造物が配されており、仏殿裏の池の脇には鐘楼が描かれている。この鐘楼は延享元年（1744年）に建立されたもので、宝治2年（1248年）銘を持つ梵鐘（鎌倉国宝館寄託）も描き込まれる。鐘楼は関東大震災で倒壊して現在は残っていない。また仏殿の裏手には五輪塔が描かれ、北条泰時墓と伝わる石塔の位置と一致する。また文殊堂の裏手には泰時女、もしくは大姫の墳墓と伝わる「姫宮」や、木曾義仲息・義高の墓と伝承される「義高墓」も描かれる。その他、竹や松など樹木を写実的に描き分けており、特に境内中央の仏殿と文殊堂の前には、開山のお手植えと伝わる大銀杏が象徴的に描かれている。

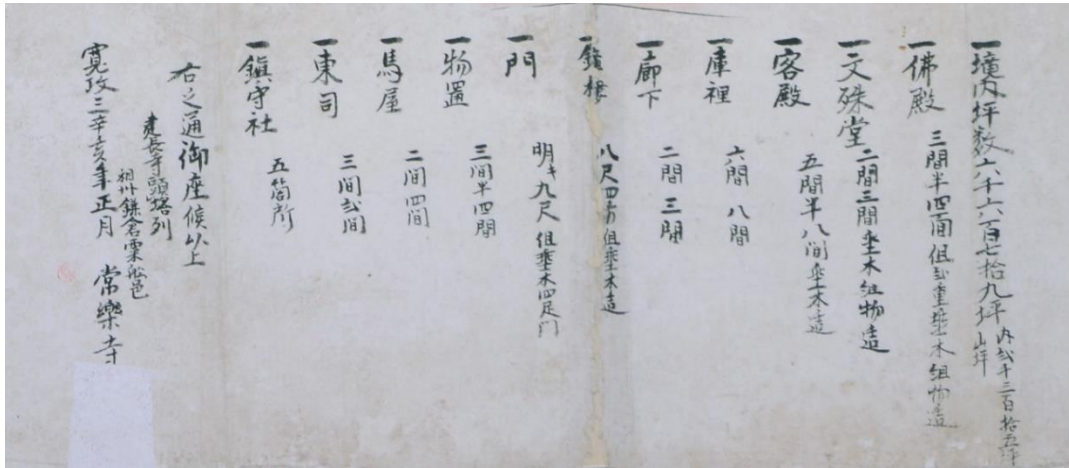
本絵図は寛政年間の境内の様子が見える資料として大変貴重である。



● 畑 ● 水 ● 路

- 一境內坪數六千六百七拾九坪內於千言拾壹坪
- 一佛殿 三間半四間但於壹至木組物造
- 一文殊堂 二間三間木組物造
- 一客殿 五間半八間木造
- 一庫裡 六間八間
- 一廊下 二間三間
- 一發標 八尺四寸但壹木造
- 一門 明九尺但壹木四尺門
- 一物置 三間半四間
- 一馬屋 二間四間
- 一東司 三間四間
- 一鎮守社 五間半
- 右之通御座候以上
東寺寺號列
相州鎌倉家松邑
寛政三辛丑年正月 常樂寺

・ 絵図下部の坪数等の注記



一、境内坪数六千六百七拾九坪 内式千三百拾五坪

一、仏殿 三間半四面、但式重垂木組物造、

一、文殊堂 二間三間垂木組物造、

一、客殿 五間半八間垂木造、

一、庫裡 六間八間、

一、廊下 二間三間、

一、鐘楼 八尺四方、但垂木造、

一、門 明ギ、九尺、但垂木四足門、

一、物置 三間半四間、

一、馬屋 二間四間、

一、東司 三間式間、

一、鎮守社 五箇所、

右之通御座候、以上、

建長寺頭レ塔列

相州鎌倉粟舩邑

寛政三辛亥年正月 常樂寺

・ 上部の裏面「境内坪数並諸建物之絵図 建長寺塔頭列 相州鎌倉粟舩邑 常樂寺」

